～家庭(保護者)・地域の皆さんへ～

八雲町CS連協だより

第 11 号
発行日:令和７年３月 21 日
発行元:八雲町コミュニティ・スクール推進グループ

町内の各コミュニティ・スクール（CS）運営の充実・深化、及び連携や情報の共有を図ることを目的として、八雲町教育委員会では年に２回、「八雲町コミュニティ・スクール連絡協議会」を開催しています。

今号では、２月２０日（木）に開催された協議会で報告のあった、各中学校区における取組状況をご紹介します。

▲八雲町CSについて
（八雲町HP）

あなたの地域は？

各中学校区での取組状況

八雲中学校区

（八雲中・八雲小・浜松小）

【令和６年度の取組】

●八雲中学校の生徒や地域ボランティアの協力の元、校区内の小学生を対象とした「夏休み学習会」（学校運営協議会主催）を今年も実施することができた。

●学校運営協議会の委員自らも地域を学ぶ必要性を感じ、講師を招いた学習会を開催した。

【令和７年度の予定】

●各校で数多く実施されている地域と協働した取組を整理するとともに、CS と関連を持たせた展開が考えられないか検討していきたい。

野田生中学校区

（野田生中・東野小・野田生小・山越小）

【令和６年度の取組】

●校区内の小学校と中学校が連携した取組を多く展開できているのが、野田生中学校区の特徴。

●「山後継者の会」協力による「田植え体験」など、この地域ならではの学びを子どもたちに提供することができている。

【令和７年度の予定】

●令和６年度に実施した「一日防災学校」の取組を、今後も自主的に継続して実施していきたい。地域ぐるみの防災を考えていくためにも、地域住民の皆さんにもぜひ参加いただきたい。

落部中学校区

（落部中・落部小）

【令和６年度の取組】

●子どもたちの登校を地域の方に見守っていただく「地域見守り活動」、修学旅行先での「八雲町 PR 活動」を今年も実施することができた。

●PTA 有志により復活した「地引網体験」は、まさに地域と学校のつながりを深めた取組。

【令和７年度の予定】

●「チーム落部・オール落部で創る学校」のため、CS の取組に対し地域住民の参加を引き続き呼び掛けていきたい。「地域見守り活動」等、地域の方が参加しやすいよう方法を変えたことで好評を得たものもあったため、引き続き実施方法を工夫しながら取り組んでいきたい。

熊石中学校区

（熊石中・熊石小）

【令和６年度の取組】

●熊石地域小・中学校の義務教育学校移行化について、学校運営協議会で意見交流を行った。

●地域と連携した様々な取組を校区内で実施中。中学校では「総合的な学習の時間」において、熊石地域活性化案のプレゼンテーションを地域住民に対して行った。

【令和７年度の予定】

●中学校で初めて実施した「熊石フォトコンテスト」（今号 P.4 で紹介中！）は、地域住民も参加できる取組であるとして好評だった。「学校が地域に出かけていく」姿勢を大切にしながら、今後も様々な取組を継続していきたい。

八雲町のCSを
外からの目線で見てみた！

＼良いところ・優れているところ／

八雲町CSの特長

自分のことは自分ではよく分からないもの…外からの目線で見てもらうことで、新たに気づくことも多いですよね。
今年度、八雲町CSの実態を調査するため、八雲に縁のある、とある方が来町！
八雲町CSの特徴（とりわけ、良い「特長」！）について教えていただきたく、寄稿をお願いしました。果たして、外からの目線で見る八雲町CSの良さとは……？

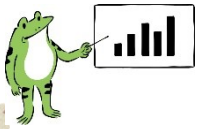
北翔大学大学院生　澁谷　拓さん
（北広島市立大曲東小学校　校長）

八雲町の皆さん、お久しぶりです！

私は、平成15年４月から18年３月までの３年間、北海道教育委員会の派遣社会教育主事として八雲町教育委員会で勤務しました。当時はちょうど平成の大合併の時で、３年間で町長が職務代理者を含めて５人就任するような情勢でした。八雲山車行列の開催期間を７月上旬に変更したのもこの頃です。また、今も続く放課後子ども教室『わくわく教室』を開設したのもこの時期で、懐かしく思います。

現在、私は北広島市立大曲東小学校に勤務しており、同時に北翔大学大学院で小中一貫教育を基盤としたコミュニティ・スクールに関する研究で修士論文を作成しています。その研究調査のため、昨年８月に八雲町教育委員会に依頼し、快諾いただいて訪問しました。ご多忙の中、ご対応いただいた八雲町教育委員会の職員の皆様、関係校の皆様には感謝申し上げます。

私が勤務する北広島市でも小中一貫教育を基盤にしたコミュニティ・スクールの取組を積極的に進めております。令和３年に『小中一貫教育全国サミット』を開催したことは記憶に新しいところです。今回の調査や提供いただいた資料、私の経験などをもとに八雲町の取組の特長（４点）について以下のようにまとめてみましたので、ご紹介します。



このときの「小中一貫教育全国サミット」では、
八雲町からも落部小学校が実践発表しました。
その様子は「たより第6号」でもご紹介しています！

八雲町CSの特長4点

ポイント1　「小中一貫型×CS」を早い段階から全中学校区でスタート！

平成30年度から『小中一貫型コミュニティ・スクール』を町内すべての中学校区でスタートしたことは先駆的です。小中一貫教育の導入と合わせる形で、保護者や地域の方々と協働して、地域全体で子どもたちの学びを支える組織づくりを行い、各中学校区で特色ある取組を積極的に推進しています。小中一貫教育とコミュニティ・スクールを一体とした取組を早い段階で導入した先取の精神がうかがえます。

CS導入にあたっては、CSマイスターを招いた講演会も開催（平成28年度）。
八雲町のCSのあり方を模索していました。

ポイント2

八雲町全体で「めざす15歳の姿」を設定し、学校と地域で共有！

『めざす 15 歳の姿』を設定し、その実現に向けた各中学校区コミュニティ・スクールが推進されています。各中学校区による『めざす 15 歳の姿』や『めざす子ども像』のほかに八雲町では全体で『めざす 15 歳の姿』を設定しています。「地域を愛し、自ら学び判断し行動できる、豊かな情操を備えた、心身共に健康な若者」と具体的でイメージしやすい子どもの姿を小学校・中学校・保護者と地域が共有し、具体的な活動を推進しています。

学校運営協議会で八雲町の「めざす15歳の姿」を共有すると共に、熟議では地域として育てたい子ども像をさらに話し合うことも。

ポイント3

小中連携・地学協働が充実！「CS だより」で町民への周知啓発も◎

小学校と中学校の連携や、学校と地域の連携による協働した活動（地域学校協働活動：地学協働）が充実しています。今後において、小中一貫教育やコミュニティ・スクールの取組がマンネリ化し形式化することが懸念されており、持続可能なシステムにすることが課題です。八雲町では、コロナ禍でも中断することなく組織と活動を維持し継続していました。推進グループが発行する『八雲町 CS 連協だより』がコミュニティ・スクールの目指す方向や各地区の取組を紹介し、町民への周知と啓発に有効に働いています。

「おらが町の子どもたちはみんなで育てる」、CSを我が事として捉えてもらえるように作成しています。

ポイント4

八雲町ならではの地域資源を生かしながら、地区ごとに特色ある活動を展開！

地区ごとの特色ある活動が実践されています。八雲町は豊かな自然環境や農業と漁業などの産業、地域に根ざした文化的活動を積極的に取り入れた各地区の特色ある活動が行われています。具体例として、夏休み期間中の自主学習会（八雲中学校区）、小小連携による農業体験（野田生中学校区）、地元漁協と連携したふるさと学習（落部中学校区）、「ふるさと熊石」踊り（熊石中学校区）などの魅力ある活動があげられます。

各地区の取組は、毎号「Report」のページでもご紹介しています！

こうした各地区に充実したコミュニティ・スクールが形成できるのは、八雲町が長年にわたって培ってきた社会教育の推進や充実が基盤にあると考えています。八雲町に勤務していたときも、山車行列をはじめ町民が積極的に参画する事業が数多くあり、一体となって取り組む町民性が培われていると感じます。「子どもたちのために」「学校のために」という思いで活動してくださる方々の様子がこれまでの『八雲町 CS 連協だより』からも伝わってきました。

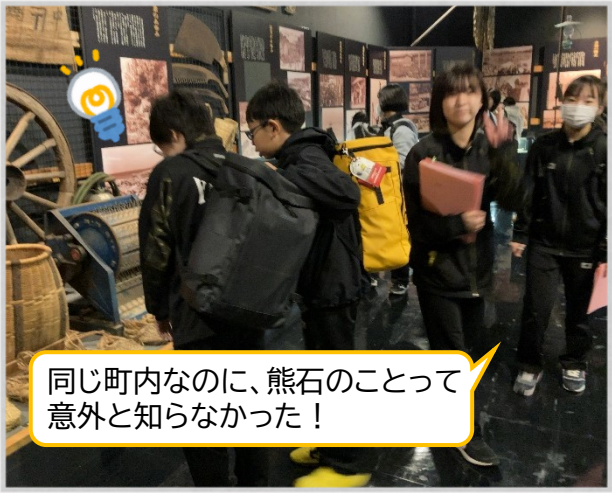
しかし、小中一貫型コミュニティ・スクールを推進するためには、いくつか課題があります。

小中一貫教育では、９年間を見通したカリキュラムの編成や活動づくり、小小連携・小中連携のための打ち合わせ等の業務負担の軽減について検討する必要があります。またコミュニティ・スクールでは、委員の高齢化、次世代への交代や協力者の育成（特に若年層の参画）、活動のマンネリ化や組織の形式化などがあげられます。「地域の子どもは地域で見守り、育てる」ことを念頭に、「15 歳の目指す子ども像」を共有し、学校や保護者・地域の皆様が共に知恵を出し合い協働しながら、子どもたちの豊かな成長を支える持続可能なシステムを進めていくことが一層重要になると考えています。

澁谷校長先生、ありがとうございました！

Report

町内で実施された、地域と学校が協働した活動について、
各中学校区から1事例ずつ紹介♪ご協力いただいた地域の皆さん、ありがとうございました！



熊石ふるさと学習（八雲中学校）

1 年生がふるさと調べ学習で郷土八雲町を学ぶため、八雲地区を飛び出し熊石地区での研修を実施しました。

郷土資料館学芸員を講師に事前学習を行い、熊石総合センター、熊石歴史記念館、熊石漁港ふれあい広場、海洋深層水総合交流施設、熊石サーモン種苗生産施設を訪問しました。

地域合唱団との合同合唱（山越小学校）

八雲町内の合唱団「さざなみコーラス」さんと一緒に歌の練習をして、学習発表会で合同合唱を披露しました。

子どもたちは、素敵な声やハーモニーに気持ちを合わせながら、大人数で歌う楽しさを味わうことができました。

地引網体験（落部小・中学校）

PTA有志を中心に企画、準備し、落部の浜で地引網体験を行いました。「今の子どもたちにも体験させてあげたい！」という、地域の熱い想いから復活！

晴天のもと、大人と子ども合わせて 70 人以上で網を引き、カレイやタコ、カニなどを捕獲！落部の海の豊かさを改めて実感しました。

熊石フォトコンテスト（熊石中学校）

3 年生が企画し、熊石町民から募集したフォトコンテスト。「熊石地区の風景または人」をテーマに、59点の作品が集まりました。

応募作品は生徒が審査し、入賞した 10 作品が 12 月のオープンスクールで表彰されました。応募作品は熊石総合支所1階町民ギャラリーでも展示されました。

バックナンバー

八雲町　CS連協だより

「八雲町CS連協だより」のバックナンバーは、八雲町ホームページからご覧いただけます。

【発行元】八雲町コミュニティ・スクール推進グループ（八雲町教育委員会内）
〒049-3112　八雲町末広町154番地　☎0137-63-3131